

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0390800035		
法人名	株式会社 三協医科器械		
事業所名	グループホーム あったかいごひといち		
所在地	〒028-0523 岩手県遠野市中央通り5-25 (電話) 0198-63-1516		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成21年2月24日

## 【情報提供票より】(平成20年11月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	9 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての		2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	理美容代・行事費実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 昼食代に含む
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	66 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	あいずみ内科医院 佐藤歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠野市内の商店街に位置し、生活の便はすこぶる良い。ホームは元家具屋であった建物を改築し、1階には認知症デイサービスと訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所が併設されている。職員は、ホームの家庭的な温かさを大切にしながら、日常における活動を通して利用者との支え合いの関係を築き、お互いが笑顔で過ごすことのできるよう支援している。一方地域においては、自治会や商工会の会員として地元のお祭りや地域の行事に積極的に参加しており、近隣の人々と交流を図りながら地域の一員として活動している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で取り組みを期待された共用空間の環境整備について、今年度より環境係を設けて、快適な空間づくりを検討している。このほか研修担当などを設け、それぞれの担当者が重点的に活動している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で1ヵ月ほど時間をかけて自己評価に取り組んでおり、その作業過程において評価の意義や目的の理解に努めるとともに、職員の気づきを大切に、ケア会議で取り上げその実践に向け取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者とその家族からも積極的に参加を得たいの思いから、家族の都合に合わせて開催日程を設定しており、運営推進会議の開催によって地域の人々とのふれあいの機会ともなっている。施設の行事や利用者の近況を報告しているほか、包括支援センターや交番の委員からは、避難訓練や災害対策などの対応について活発な意見交換がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や利用者の通院時に家族が訪れる際には、利用者の最近の暮らしぶりや健康状態等をお知らせしている。また、ホームへの要望を聞く機会として、家族が出席するサービス担当者会議等で話し合うこととしており、家族からは整容等に関する具体的な要望が出されており、検討のうえケアプランに反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	遠野市内のメイン通りに位置しており、自治会や商工会に加入している。地域行事である花いっぱい運動や清掃活動のほか、そば打ち研修会、遠野祭りの一環である一日市南部祭り等にはできる範囲で参加し、地域の住民と顔見知りとなり、馴染みの関係を築いている。なお、災害時などにおける地域連携の一つとして、近隣住民がホームの緊急協力員となっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営理念「共に和み、共に生きる」をホームの共通理念として定めている。職員間で話し合いを持ち、商店街の一角にあるというホームの環境を活かしながら、利用者が社会の一員として住み慣れた地域で生活することを支援するとともに、温かな家庭的雰囲気大切にすることを共通認識としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の「共に和み、共に生きる」のほかに、「笑顔は最高のケア、最高のサービス」を心構えとし、朝礼時に、全員で唱和している。又それらは職員の見やすい場所に掲示されており、いつでも確認できるようになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	遠野市内のメイン通りに位置しており、自治会や商工会に加入している。地域行事である花いっぱい運動や清掃活動のほか、そば打ち研修会、遠野祭りの一環である一日市南部祭り等にはできる範囲で参加し、地域の住民と顔見知りの関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で1ヵ月ほど時間をかけて自己評価に取り組んでおり、その作業過程において評価の意義や目的の理解に努めるとともに、職員の気づきを大切に、ケア会議で取り上げその実践に向け取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者と家族がメンバーとして参加することによって地域の人々とのふれあいの機会もなっている。施設の行事や利用者の近況を報告しているほか、地域包括支援センターや交番の委員からは、避難訓練や災害対策などの対応について活発な意見交換がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、お互い往来する機会に意見交換を行い、またホーム便り等で活動状況を報告するなど、情報交換を行っている。市の直営である地域包括支援センターとは、新規利用申し込みや利用者の在宅復帰後のサービスの提供に関する相談など、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や利用者の通院時に家族が訪れる際に、利用者の最近の暮らしぶりや健康状態の説明をするとともに、日用品購入などの金銭の立替え分の清算等を行っている。遠方の家族へは月に1回ほど利用者に電話をかけて、暮らしぶり等を伝えている。また、写真入りの広報誌を発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設置していないが、家族が出席するサービス担当者会議等の機会に、ホームへの要望等を聞く機会を設けている。家族からは整容等に関する具体的な要望が出されており、検討のうけケアプランに反映している。	○	家族から直接要望等を聞くこと以外に、家族同士で気軽に意見を話し合うことができるような機会づくりを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員によるケアの継続を基本としているが、職員の異動があった場合には、新しい職員は利用者への挨拶や声掛け等を行いながら、積極的に馴染みの関係を築く努力をし、影響を最小限にとどめる支援を検討していきたいとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は毎月参加することとしており、研修後には会議のなかで、全職員に内容を伝達共有している。また、仕事をしながらの職員の疑問に対しては、周りの職員がアドバイスをして、その解消に努めるとともに、全体のサービスの向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国・県のグループホーム協会の会員となっており、各々で開催される研修会にはできるだけ参加するようにしている。また、遠野市内に4つのグループホームが設置されており、年に1回交流会を持ち、顔なじみの関係を築き交流促進やサービスのスキルの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が利用者宅を訪問したり、利用者と家族が施設見学や「お試し宿泊」等を利用するなどして、職員や利用者の状況を知り、ホームの雰囲気に馴染むことを通じて、できるだけ安心感を持って利用に結び付けるように努めている。また、サービス開始後は他の利用者とのスムーズな関係づくりに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	みずき団子、七草粥、畑仕事など買い物、食事作り、清掃などの活動において、利用者の得意な活動、興味を示した活動について、職員と利用者が一緒に取り組みながら「共に生き、共に支えあう」関係が築けるように努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や希望は、顔の表情や行動から把握する努力をしている。利用者一人ひとりの希望や思いに沿ったサービスを提供できるよう努力している。天気の良い日のドライブ等の対応に応じるなど取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の考えていることをこまめに聞き、毎月のモニタリングとカンファレンス結果を参考に職員のアイデアを十分に取り入れながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3か月に1回行っている。モニタリングの結果や本人・家族の要望、かかりつけ医、看護師の意見等をグループホーム会議で検討し作成している。また、利用者の心身に変化等が起きた場合には介護計画の変更を随時行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望によって民謡大会の鑑賞やドライブに出かけるなどの対応をしている。このほか、施設内にある訪問看護ステーションとの医療連携により、迅速な対応と気軽な相談ができることから、利用者の健康面に対する安心につながっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の医療面でのサービスは、本人が希望するかかりつけ医としている。通院支援は家族が行うことを基本としているが、遠方に住んでいる家族や通院日に都合が悪い家族には、職員が代行することとしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に対応を家族と話し合っているが、「その時になってみないとわからない」というのが大方の答である。施設では対応指針を職員が共有し、家族、かかりつけ医、訪問看護師等を交えて個々の事例の対応方針を職員の間で共有することとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しては、一人ひとりに声掛けする時にはプライバシーに十分気をつけながら行っており、排泄・入浴介助の際には周囲の状況を見極め羞恥心に配慮しながら行っている。また居室への出入りには必ず利用者の了解をとることにしている。ケアプラン等個人情報の書類は施錠できる書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを居室で見たい人、紙人形を作りたい人、外に散歩に出かけたい人等様々であるが、利用者の希望や習慣、生活リズムを尊重して対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、食事、後片付け等一連作業では、利用者のできること、したいことを職員と一緒に、支えあいながら和気あいあいと行っている。栄養士の作った献立が基本となるが、利用者の意見を取り入れ普段と違った食卓を囲むこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝9時から夕方4時頃まで利用者の希望する時間に合わせた入浴支援を行っている。入浴を楽しめる工夫として、入浴剤を使用して雰囲気を変えることや、併設するデイサービスにある準天然温泉の大きな風呂を利用する方法により支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテンの開閉、施錠の確認、掃除や食事作り、昔の経験を生かしたひつつみや団子づくり等を一人ひとりが得意なこと、できることを通して役割感や楽しみ、気晴らし感を得ることができるよう支援をしている。また、頼んだ時には必ず感謝の気持ちを伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候を見ながら、利用者の希望に合わせて買い物やドライブ等を楽しんでいる。5月からは季節を肌で感じることができるよう、お花見や紅葉狩り、地域の神社のお祭り等に参加している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階建ての2階部分という環境にあることから、利用者の安全確保のため夜間鍵をかけているところはあるものの、その他リビングや居室などには施錠することなく、自由に行動できる環境づくりに努めている。外出をうかがう利用者には、さりげない声かけや、同行するなどにより対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルに基づき年に2回避難訓練を実施している。来年度は近隣の緊急協力員の協力を得て、夜間を想定した避難訓練の実施を検討することとしている。なお、心肺蘇生法の訓練は受講済みである。	○	マニュアルの作成や備蓄の確保、さらに地域住民の協力を得るなど、災害時に備えた体制づくりが着実に進められている。今後も夜間想定避難訓練を検討しており、今後引き続きの取り組みとその充実が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の面では栄養士がバランスのとれた献立を作っており、利用者の摂食状況に応じて刻み食、お粥等を他の利用者に察知されないような工夫をして提供している。また食事や水分の摂取状況は毎日チェックして、食の細かい利用者にはかかりつけ医の意見を聴き、高カロリー食等を提供するなどの配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等の共用空間には、季節の花や季節感のある折り紙、手作りカレンダーなどが飾られている。窓際には干し柿が干されており、作り付けのベンチは、腰掛けるのにちょうど良い高さで、食事を終えた利用者が腰掛けてテレビを見るなど心地よく過ごしている。また施設では環境係を設け、利用者に快適に生活してもらえるような工夫に取り組んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には使いなれた馴染みの筆筒や写真、仏壇、趣味で作った紙人形などが並び、利用者にとって居心地良い環境に保たれている。		